

戸畑区自治会だより

発行年月日 平成25年1月1日
発行 北九州市戸畑区
千防一丁目1番1号
北九州市戸畑区自治総連合会
(戸畑区役所コミュニティ支援課内)
発行責任者 会長 永井博文
電話 871-1501(代)

年末年始 特別警戒

合同出動式



十二月三日(月)に戸畑防犯協会連合会などの主催で、「年末年始特別警戒合同出動式」が戸畑警察署で開催されました。当日は、柏木戸畑区長、近藤戸畑警察署長など多くの関係者をはじめ、日頃から地域における防犯活動等に従事している多くの自治会関係者が参加しました。
出動式冒頭には、一日警察署長に就任した中川JR九州戸畑駅長が白バイや消防車両、青色パトロールカーなどの部隊を視閲し、激励の言葉を述べました。
その後、東戸畑生活安全パトロール隊の堤隊長より活動宣言が行われ、参加者は慌ただしい年末の街中へパトロールに出発しました。

謹賀新年

平成三十五年 元旦

戸畑区自治総連合会
戸畑区市民防災会連合会

会長 永井 博文
(北沢見地区会長)

副会長 野口 勝義
(西戸畑地区会長)

副会長 坂本 三夫
(西一枝地区会長)

会計 三上 久恵
(天籟寺地区会長)

東戸畑地区会長 鈴木良次郎

牧山地区会長 森 義明

牧山東地区会長 松本 剛重

大谷第一地区会長 檜山 弘之

大谷第二地区会長 宮原 和三

鞘ヶ谷・福柳木地区会長 山本 忠雄

東一枝地区会長 永原 智時

東中原地区会長 吉尾 勉

西中原地区会長 佐藤 哲男

三六地区会長 木下 憲定

南沢見地区会長 原田 修

浅生地区会長 和泉 政良

新年あけましておめでとうございませう。
会員の皆様におかれましては、健康やかで希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また平素より、戸畑区自治総連合会をはじめ、戸畑区市民防災会連合会の諸活動において、積極的なご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、平成二十四年を顧みますと、自治総連合会においては役員定年・任期制が施行されました。

は、各地区自治会長さんをはじめ、協議会長さんや自治委員さんのご協力があったからこそのもと考えております。北九州市は本年、市制五十周年

年頭にあたり



戸畑区自治総連合会 戸畑区市民防災会連合会 会長 永井 博文

戸畑区においては、例年の菖蒲まつりや戸畑祇園に加え、若戸大橋開通五十周年を記念した多くの行事もありました。このような活動や行事の成功

という市民にとっても大変喜ばしい記念すべき年になると思っております。しかし戸畑区自治総連合会においては少子高齢化等による自治会加入率の低下が懸念され、これに伴っ

年が皆様方にとってご多幸な年となりますよう祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。平成二十五年 元旦

謹んで初春のお慶びを申し上げます。戸畑区自治総連合会並びに市民防災会連合会員の皆様には、市政の推進にあたり日頃より多大なご協力を賜るとともに、安全・安心なまちづくりのため防犯・防災等の様々な活動にご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

で快適な生活が楽しめる文教のまち「戸畑」を目指して、旧区役所庁舎の図書館としての再整備など、更なる魅力づくりを進めるとともに

年という、北九州市にとって大きな節目の年でもあります。戸畑区においても、市制五十周年を記念した様々な事業が予定されております。この記念事業を通じて戸畑区を訪れた皆様の方々に、戸畑区の魅力を実感してもらいたいと考えておりますので、本年も皆様方のご支援とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。



新年のご挨拶
柏木 戸畑区長
木 康彦

昨年、戸畑区におきましては、若戸大橋開通五十周年記念イベントや「旧松本家住宅」竣工百年記念事業などが行われ、例年以上に賑わいある年となりました。平成二十五年は、戸畑区まちづくりのテーマである「心豊か

に、日々の防犯活動や防災活動にも、区民の皆様とともに積極的に携わっていく所存です。また今年、北九州市制五十周

展と、会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。平成二十五年 元旦

赤い羽根共同募金 ご協力ありがとうございました。

福岡県共同募金会北九州市戸畑区支会

毎年、10月1日から12月31日までの間、全国一斉に赤い羽根共同募金運動が実施されます。平成24年も戸別募金や街頭募金など多数の皆様にご協力いただき、ありがとうございました。



戸畑駅での街頭募金風景

皆様からの貴いご寄付は、地域福祉のため活用させていただきます。

戸畑区自治総連合会 ホームページ開設!

戸畑区自治総連合会では、広く地域の情報を発信し皆様に自治会の活動を知っていただきたいの思いから、自治会ホームページを開設しました。地域イベントの開催情報や当日の様子など、身近な情報が満載です。「自治会って、何をしているの?」といった素朴な疑問にもお答えできるよう、工夫を凝らしています!ぜひ一度、ご覧ください。

戸畑区自治総連合会 で 検索できます!!

~戸畑区自治総連合会事務局~



賑わう戸畑イベント会場

祝! 若戸大橋開通五十周年

若戸大橋開通五十周年を記念し、北九州市道路公社主催の、若戸大橋を歩いて渡るイベント「若戸大橋1Dayレッドウォーク」が十月二十八日(日)に行われました。このイベントにあわせ戸畑区でも実行委員会主催による「おもてなしイベント」を開催。西大山笠囃子方や北九州市立高校ダンス部など、多くの市民が出演したステージイベントのほか、食の祭典やバザー、新日鐵住金(株)八幡製鐵所と日本水産(株)の協力による産業観光などを実施しました。訪れた参加者は爽やかな秋空のもと戸畑の「おもてなし」を堪能していました。

戸畑区市民防災会だより

発行年月日 平成25年1月1日
 発行 北九州市戸畑区 新池二丁目1番15号
 北九州市戸畑区市民防災会連合会 (戸畑消防署予防課内)
 発行責任者 会長 永井博文
 電話 861-0119 (代)

向こう三軒両隣り
 みんなで気配り助け合い



消防に関する相談
 ■消防訓練・救急講習などは
 戸畑消防署
 861-0119
 戸畑消防署大谷出張所
 883-0119
 ■災害情報を聞きたいときは
 トーキョーサービス
 582-1234

火災による死者が増加中

平成二十四年中(十一月三十日現在)の市内の火災発生状況を見ると、発生件数は322件で前年同期(378件)より減少しています。しかし、火災による死者は、十七名とすでに前年(十六名)より増加しております。

このうち、平成二十四年中は、一月から三月中に八名の方が亡くなっており、冬場に集中していることがわかります。これから寒さも本格的な時期を迎えます。くれぐれも火の取扱いに注意していただきたいと思います。

★冬場に起こりやすい火災原因

- ・給油後、カートリッジタンクのキャップがきちんと閉まっていなかった。
- ・ストーブの上で洗濯物を干していた。
- ・ふとんなどの近くでストーブを使用していた。
- ・こたつの中で衣類などを乾かしていた。
- ・着膨れするため、着衣と火との距離感が違うため、誤って着衣に着火した。



久留米市山川校区自治会連絡協議会が戸畑区市民防災会を視察

平成二十四年十一月十四日(水)に戸畑消防署において、久留米市山川校区自治会連絡協議会の役員十七名が戸畑区市民防災会連合会を視察に訪れました。内容は、戸畑区市民防災会連合会の活動状況及び防災資機材の整備状況並びに南沢見地区市民防災会による活動の事例紹介、災害救助工具セット、折りたたみ式リアカー、折りたたみ式担架の取り扱いを視察されました。また、戸畑区市民防災会連合会の会長及び副会長と山川校区自治会連絡協議会の役員の活発な意見交換が行われ、両組織にとって実りある視察となりました。



折りたたみ式担架の説明

謹賀新年

災害のない一年でありますように
 皆様方のご多幸とご健康を祈念いたします



戸畑消防署長 許斐義人
 平成二十五年元旦

「戸畑区防災訓練」実施

大谷地区
 平成二十四年十月二十日(土) 戸畑区菅原四丁目六番一号大谷小学校で戸畑区防災訓練が実施されました。

福岡県北部で震度六弱の揺れを観測し、木造家屋十数棟が崩壊。崩壊した家屋から火災が発生しているとの想定で行われ、大谷第一地区市民防災会と平成二十四年度から二年間住宅防火防災モデル地区に指定された大谷第二地区市民防災会の皆さんが参加しました。



水消火器取扱訓練の様子



バケツリレーの様子

訓練は、避難誘導訓練

また、バケツリレーでは、各地区とも連携が素晴らしくベニヤハウスが全焼する前に消し止めることができました。訓練に参加された皆様大変お疲れさまでした。

恒例の牧山東いっせい「火の用心」実施

救山東地区
 毎年恒例となっております、牧山東地区での牧山東いっせい火の用心が平成二十四年十一月九日(金)午後七時から実施されました。

牧山東地区市民防災会の松本会長の挨拶の後、戸畑消防署長の挨拶及び予防指導係長の防火講話を行い、今年も、スプレー式簡易消火具での天ぷら油火災消火実験を行いました。



開会の様子

平成二十四年度の戸畑区自治会連合会及び市民防災会連合会の役員研修会が、十一月六日(火)、七日(水)の二日間実施されました。

今年度は、平成十五年七月二十日に土石流災害(死者十九名・負傷者七名)が発生し、大きな被害を受けた熊本県水俣市に災害発生時の防災活動状況や現在の自主防災組織の活動状況について視察を行いました。

土石流災害時の状況について説明を受ける(水俣市役所)



平成24年度 役員視察研修会

水俣市は、熊本県の最南端に位置し、人口約二万七千人で水俣市の発生した都市として知られていますが、近年では、温室効果ガスの大幅削減などへの取り組みを行っており、九州では北九州市とともに平成二十年七月に国の「環境モデル都市」に選定されています。

研修会では、まず初めに水俣市職員から説明があり、土石流発生前の水俣市の自主防災組織率は、約7%(現在97.2%)と低く、行政のみならず、地域住民も含め防災意識等が低かったことから「何をどこに報告し、どこから情報を得るのか」が分からず災害対策本部が混乱状態であったことなどの話を聞くことができました。

その後、積極的に住民自ら防災活動を行い、平成二十一年第十三回防災まちづくり大賞において「消防庁長官賞」を受賞した三区自治会防災防犯委員会の会長及び水俣市職員から地域性にあった「安心・安全マップの作成」や日頃からの「初期消火訓練」「救命講習」等の活動状況を説明してもらいました。

今回、実災害を経験した方から話を聞くことができ、日頃から防災に備えて準備と知識を身につけておくことが大切であると感じました。

また近年、今までに経験のない災害が各地で発生していますが「のど元過ぎれば熱さ忘れる」という、ことわざがあるように、大災害が発生した地域であっても年数の経過とともに防災意識の低下が今後の課題の一つであることを感じるとともに、災害発生時には、戸畑区市民防災会の活動の合言葉である「向こう三軒両隣 みんなで気配り助け合い」が重要であることを改めて認識する役員研修でした。